

広報人権～ともにいける～

松橋西支援学校

No.31

2017/7/20



盛夏の候、保護者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。暑い毎日が続いていますが、学校では元気な児童・生徒の様子が見られています。

さて、平成28年度の本校におけるいじめの認知件数は0件でした。今年度も6月に『心のきずなを深める月間～いじめを許さない学校・学級を目指して～』のテーマのもと、発達段階に応じて、学部ごとに人権学習を行い、児童・生徒は真剣な表情で学習に取り組んでいました。



校長
小野 龍也

広報「人権」は、昭和63年12月24日に第1号を発刊し、本校での人権教育の取組の紹介、人権についての理解・啓発等を行ってきました。

6月は、「心のきずなを深める月間」でした。県や各学校で様々な取組がなされています。6月17日(土)に「心のきずなを深めるシンポジウム」が県庁で実施され、学校管理職、市町村教育委員会、保護者が参加し、実践発表、分科会、講演会が行われました。

今号は、本校での各学部・分教室の取組を紹介しています。今年度も、日々の教育活動を通して、人権を大切にする学校づくりを行っていきたいと思います。

小学部『ともだちのよいところをみつけよう～レッツ☆きらりんさがし！～』

小学部では、友達ともっと仲良くなるために、日常を振り返り、友達の良いところ（きらりん）を見つけ互いに伝え合う学習を行いました。「〇〇くんが紙すきのやり方を教えてくれた。」「不安なときに〇〇さんが大丈夫と言ってくれた。」などが挙げられ、あたたかな雰囲気に包まれていました。学習後は、それぞれの学級で「きらりん探し」を行い、自分や友達の良いところを伝え合いました。取組を通して、「きらりん」を意識し、友達に優しく接しようとする児童が増えました。また、「きらりん」をもらって自分の良さに気づき、嬉しそうな表情も見られました。今後も、各学級での取組を学部全体で共有する場を設けるなどして継続していくたいと思います。



中学部『友だちと仲良く過ごすために…』

中学部では、新年度になり新しい友達関係が広がっている様子が見られます。6月の学部集会では、「友達と仲良く過ごそう」をテーマに、みんなで考える時間を設けました。普段の生活を振り返り、友達と遊びたいけれど、うまく誘えなかったり、自分の気持ちを友達に伝えられなかったりする教師の演技を見て、どうすればいいのかを考え、生徒達も演技してみました。また、日頃使っている言葉を、「とげとげ言葉」と「ふわふわ言葉」に分けて確認もしました。手を挙げて発表したり、演技に挑戦したりと、生徒達が積極的に参加する姿が見られました。

学部集会後、各学年やクラスでも取組を進めました。3年生は、実際に言われて嬉しかった「ふわふわ言葉」を出し合ってカードに書き、掲示をしました。2年生は、改めてクラスでロールプレイに取り組み、友達がとる行動の理由を考えたり、やさしい言葉をかけたりする様子が見られました。1年生は、様々な「ふわふわ言葉」や「とげとげ言葉」をワークシートに分類し、友達と仲良くしていくことを学びました。

高等部『友達』

高等部では、『友達』をテーマにクラスや学年ごとに授業を行いました。

《各クラスの取組》

1年生：「友達と協力して取り組もう」

缶積みゲームを通して、友達と協力する大切さを学びました。お互いに声を掛け合い、友達と協力して缶を積み上げ、仲間意識を深めることができました。

2年1組：「友達の良いところを探そう」

友達の良いところを探し、お互いに発表し合いました。良いところをたくさん言ってもらって、恥ずかしそうにしたり、喜んだりしながら、自分に自信を付けることができました。

2年2組：「友達の良いところを伝えよう」

友達の良いところをカードに書いていきました。内容を見ると、友達の様子をしっかり見ていることが分かりました。誰のカードかクイズにしたことで、友達を想いながら答えていました。

3年生：「仲間とのかかわりについて考えよう！」

これまでの友達との思い出やこれから友達としたいことを出し合いました。自分や友達のことを考えながら、お互いに自由に話す姿があり、友達の大切さをお互いに実感することができました。

2年3組・3年3組：「力を合わせて」

「協力」という文字を5人で協力して書きました。一人一人が役割をもち、一生懸命に文字を書く活動を通して、友達が大切な役割を果たしていること、大切な存在であることを学びました。

今回の授業を通じて、友達とのかかわりが増え、笑顔で楽しく過ごす姿がたくさん見られるようになりました。これからも友達としてお互いのよさを認め合いながら、学校生活を送ってほしいと思います。



分教室『リスペクト・アザーズ』

新しい年度がスタートして3ヶ月が経ち、分教室では体育大会や日々の学習などを通して学年を超えたかかわりが増えてきました。今後さらにかかわりが増え、深まっていくことだと思います。そこで、お互いの絆を深め、気持ちのいい人間関係を築けるようにと願って学習に取り組みました。授業で視聴したドラマの中で、主人公の少年が「『リスペクト・アザーズ』と言われる方がいい。」と言っていました。日本語で「他の人を尊重しよう」というような意味ですが、人と人とのかかわりの基本になる考え方だと思います。そこで、グループに分かれて、自分の頑張っていることや、好きなこと、得意なこと、続けてやっていることなどについて話し合い、カードに書いて共有しました。保護者の方にもカードを書いてもらって、一緒に掲示してあります。分教室のみんなが友達のいいところを見る目を養い、尊重し合えるようになってほしいと思います。

魔法の言葉は、「リスペクト・アザーズ」。

宇城地域 差別事象に対する危機管理マニュアルについて

宇城地域では、差別事象が起こった場合、当事者の心のケアを第一にし、問題解決に向けて適切に対応するため、危機管理マニュアルを作成し、連絡体制の整備を行っています。

各関係機関が相互に協力し、人権尊重の精神に立った学校づくりに取り組んでいます。